

福山市民病院 臨床検査科	
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

FCH-MNL-00015
Page 1 / 46

検査案内

(一次サンプル採取マニュアル)

「総合案内」

文書番号：FCH-MNL-00015

第 11 版

福山市民病院 臨床検査科

福山市民病院 臨床検査科		FCH-MNL-00015 Page 2 / 46
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書	

改版/レビュー履歴

版数	使用開始日	改版/レビュー事項
1	2021年6月28日	第1版発行 「検査案内」より細分化して発行
2	2021年10月20日	第2版発行 1.1F平面図変更 9.1 23)一部追加 9.5 9.6 一部変更 14. 微生物関連項目一部変更 19.提出時間を変更
3	2021年12月20日	第3版発行 4.2 ガウンについて追加 一部変更 19.結果報告に制限のある項目について SARS-CoV-2 遺伝子検査予約時間表の削除
4	2022年3月23日	第4版発行 5.1 電子カルテシステムによる依頼 追加 9.5 2)早出採血時の患者急変の場合 削除 10.血液ガス 追加
4	2022年5月13日	見直し実施 文書管理者・発行者変更
5	2022年8月26日	第5版発行 5.1.2 検査ラベルの見方 7.検体提出上の注意事項 一部変更 13.1.3 微生物検査の検体 追加 20.結果報告に制限のある項目について 追加 21.検査システム(LIS)のトラブル対応と検査 28.検査終了後の検体保管・二次利用・廃棄 一部変更
6	2023年1月11日	第6版発行 14.受入不可検体 FCH-FIG-01030 溶血検体における採り直し基準
7	2023年6月5日	第7版発行 表紙から「作成者」・「確認者」・「承認者」・「文書管理者」・ 「使用開始日」の表記を削除 改版/レビュー履歴から「承認」・「確認」・「作成」・「配布」

福山市民病院 臨床検査科		FCH-MNL-00015 Page 3 / 46
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書	

		先」の表記を削除 2.臨床検査科連絡先及び業務時間 3.臨床検査科で実施する検査の概要 5.1.1 一部削除 5.1.2 一部削除 5.2、8.生理検査を削除 15 一部削除 16.パニック値（緊急異常値）の報告 20.結果報告に制限のある項目 抗酸菌塗抹 変更 SARS-CoV2 遺伝子検査 削除 28.検査終了の検体保管・二次利用・廃棄 一部変更
8	2023年12月1日	第8版発行 6.電子カルテシステム末端オーダー画面 9.1採血手順の一部変更 10.2測定結果の用紙のみを提出する場合 20.結果報告に制限のある項目について 27.外部委託検査の委託先 一部削除（生理検査）
9	2024年05月20日	第9版発行 2.臨床検査科連絡先及び業務時間 5.1.2検査ラベルの見方 凝固05の採血管写真 変更 7.検体提出上の注意事項 15.主要検査項目の結果報告時間 マイコプラズマ抗原 削除 20.結果報告に制限のある項目について 呼吸器感染症・髄膜炎スクリーニング 追加 25.苦情処理手順 苦情処理のフローチャート追加 28.検査終了後の検体保管・二次利用・廃棄 変更
10	2024年07月10日	第10版発行 23.公平性の確保と個人情報に関する臨床検査科の方針 一部追加
10	2024年10月09日	軽微な修正 4.2 2階検査室のゾーニング図
11	2025年7月20日	第11版発行 5.3新規項目を導入したい場合 6.電子カルテシステム端末オーダー画面

		10.血液ガス 20.結果報告に制限のある項目について 28.検査終了後の検体保管・二次利用・廃棄
--	--	---

配布先

臨床検査室受付

(COPY)

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 5 / 46
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

目 次

1. 臨床検査科の所在地	7
2. 臨床検査科連絡先及び業務時間	8
3. 臨床検査科で実施する検査の概要	9
4. 検査室内での感染予防対策	9
4.1 汚染区域と清潔区域	9
4.2 2階検査室のゾーニング図	10
5. 検査依頼の仕方	11
5.1 電子カルテシステムによる依頼	11
5.1.1 電子カルテシステムによる依頼方法	11
5.1.2 検査ラベルの見方	12
5.2 検査依頼伝票による依頼	18
5.3 新規項目を導入したい場合	19
6. 電子カルテシステム端末オーダー画面	19
7. 検体提出上の注意事項	21
8. 検体採取（患者準備）上の注意事項	21
9. 採血	22
9.1 採血手順	22
9.2 中央採血室の混雑時の対応	24
9.3 採血時の注意事項	24
9.4 採血後の注意事項	25
9.5 体調不良者等への対応	25
9.6 幼児・小児への対応	27
9.7 針刺し事故防止	27
10. 血液ガス	27
10.1 血液検体を提出する場合	27
10.2 測定結果の用紙のみを提出する場合	28
10.3 検査室で測定できない場合の条件	28
11. 採尿	29
12. 採痰	30
13. 検体の搬送方法	31
13.1 人手による搬送	31
13.1.1 中央採血室、外来診療科、各病棟、手術室などからの検体	31
13.1.2 病理組織検査・細胞診検査の検体	31

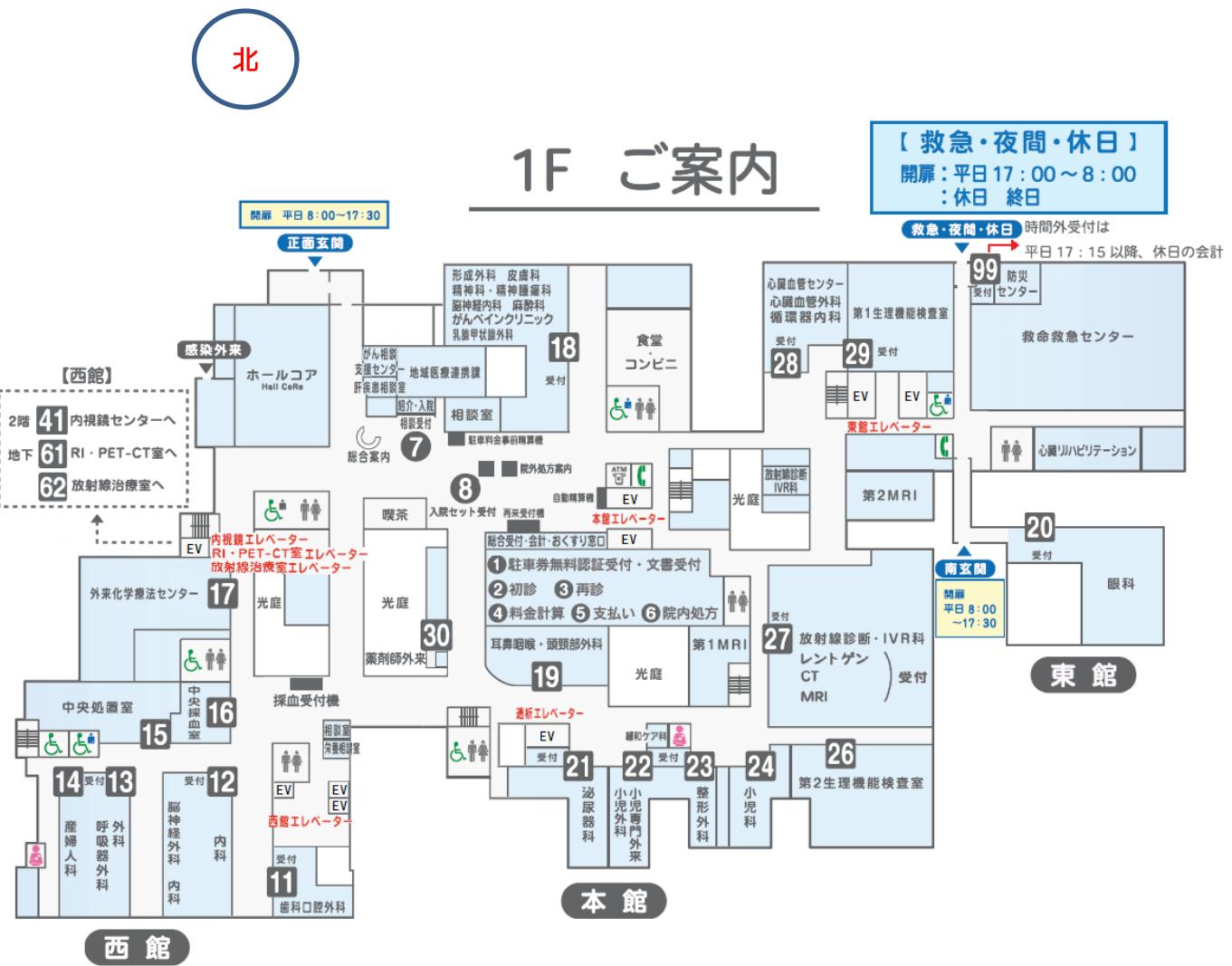
福山市民病院 臨床検査科	
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

13.1.3 微生物検査の検体	31
13.2 検体搬送上の注意事項	32
13.3 検体受領時の注意事項	32
14.受入不可検体	32
15.主要検査項目の結果報告時間	33
16.パニック値（緊急異常値）の報告	35
16.1 依頼医または主治医への連絡	35
16.2 依頼医または主治医・担当医不在又は連絡不能の場合	36
17.緊急検査への対応	37
18.追加検査への対応	37
19.検査項目の修正・削除	37
20.結果報告に制限のある項目について	38
21.検査システム（LIS）のトラブル対応と検査	40
22.電子カルテシステム（HIS）の障害時の対応と検査	40
23.公平性の確保と個人情報保護に関する臨床検査科の方針	41
24.インフォームドコンセント	41
25.苦情処理手順	42
26.アドバイスサービス	43
27.外部委託検査の委託先	43
28.検査終了後の検体保管・二次利用・廃棄	43

1. 臨床検査科の所在地

〒721-8511 広島県福山市蔵王町 5 丁目 23 番地 1 号

（084）941-5151（代表）



2F ご案内



2. 臨床検査科連絡先及び業務時間

臨床検査に関する問合せは、下記の担当部署に連絡して下さい。

連絡先	業務時間	内線番号
中央採血室受付	8:00~16:30	3110
第一生理機能検査受付	8:30~17:15	2108
第二生理機能検査受付	8:30~17:15	1196
検体検査受付	8:30~17:15	1269
尿・便・一般検査受付	8:30~17:15	1260
輸血検査受付	8:30~17:15	1261
血算・凝固因子・骨髄検査受付	8:30~17:15	1262
生化学検査受付	8:30~17:15	1264
微生物検査受付	8:30~17:15	1263
病理検査受付	8:30~17:15	1250
夜勤帯の緊急検査受付	17:15~翌8:30	7322

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 9 / 46
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

休日の緊急検査受付	8:30~翌8:30	7322
医療技術部 臨床検査科長	8:30~17:15	7321

3. 臨床検査科で実施する検査の概要

検査項目の詳細は、別冊「検査案内 院内検査項目一覧」を参照ください。

区分	検査の種類
一般検査	尿、糞便、脳脊髄液、穿刺液、関節液、精液、寄生虫などの検査
血液学的検査	血球、血沈、凝固・線溶、骨髄などの検査
生化学的検査	酵素関連物質、蛋白、脂質関連物質、生体色素、低分子窒素化合物、電解質、糖質関連物質、生体微量元素、負荷試験などの検査
免疫血清学検査	免疫グロブリン、補体関連物質、血漿蛋白、感染症関連、腫瘍関連抗原、ホルモン関連物質などの検査
輸血検査	血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験など
微生物学的検査	感染症の原因菌の検査、薬剤感受性検査、インフルエンザなどの迅速検査
病理学的検査	悪性細胞の同定・病理学的診断、病理解剖など
生理機能検査	※生理検査一検査案内を参照してください。

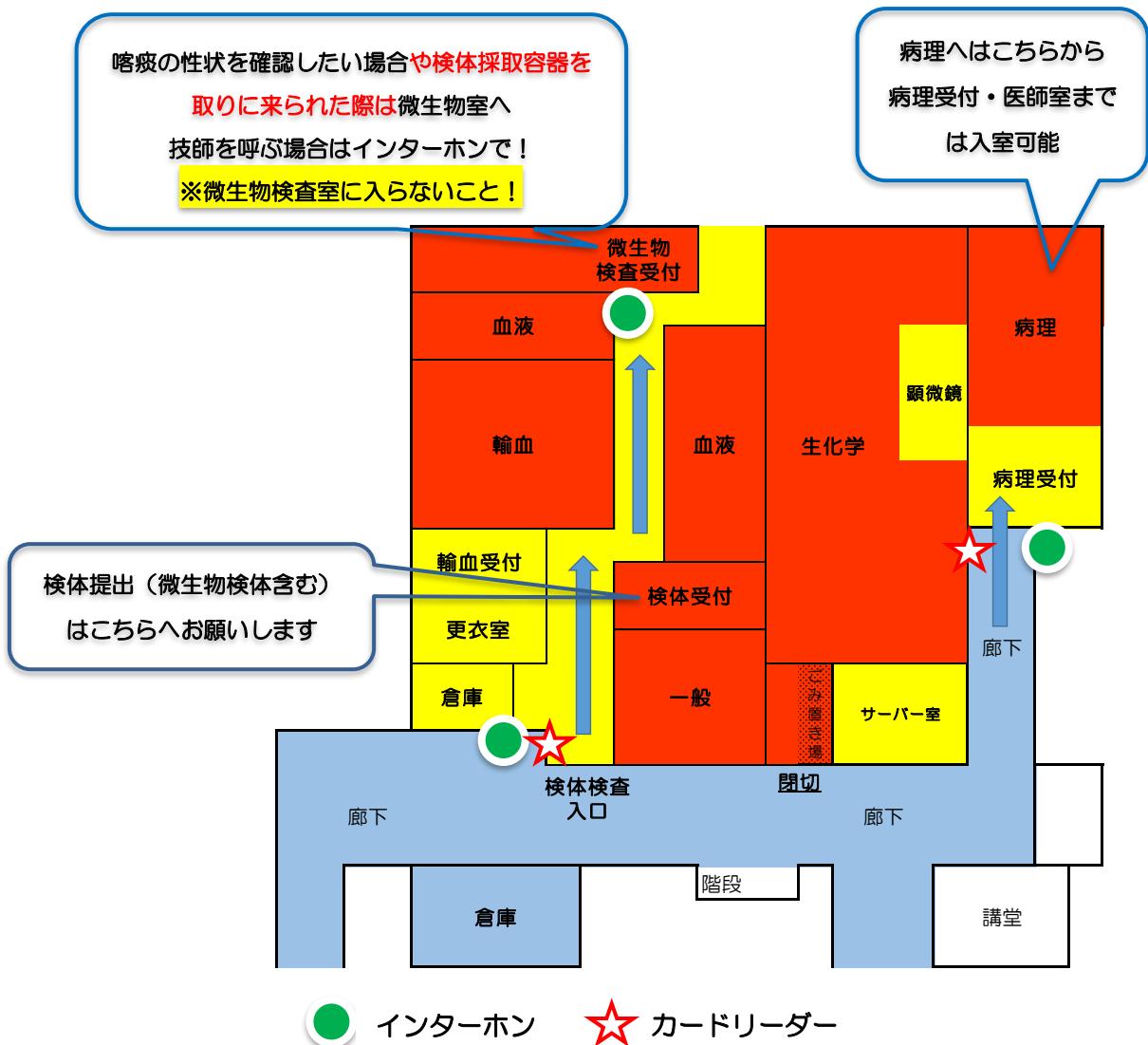
4. 検査室内での感染予防対策

4.1 汚染区域と清潔区域

臨床検査科は、検査室内での感染を予防する対策をとっています。

- 1) スタッフルーム及び生理機能検査室は、清潔区域とします。
- 2) 検体を取り扱うすべての検査室内は、汚染区域と表示します。その中でも事務的側面での作業場所は準清潔区域とします。
- 3) 採血室内は、原則清潔区域とします。
- 4) 抗酸菌検査室、病理検査室（切り出し室、クリオスタッフ設置場所及び解剖室）は、高度汚染区域とします。
- 5) 汚染区域へ立ち入る場合は、専用の白衣を着用する必要があります。検体を運搬してきた際は、汚染区域への立ち入りは原則禁止となります。

4.2 2階検査室のゾーニング図



- 1) 床に貼ってある黄色の線の内側のみ通行可能。(下記図黄色の範囲)
- 2) 赤色の線の内側には立ち入らないこと。
- 3) 赤色の線の内側に立ち入る際は白衣やガウンを着た状態で通行すること。
 青色: 清潔区域(通行可能)
 黄色: グレーゾーン(通行可能)
 赤色: 汚染区域・高度汚染区域(通行には白衣やガウンの着用が必要)
 (ガウンはディスピオザブルのものを検査室より貸出しきます。)
- 4) 検査室、病理検査室入口に入室管理用システムが導入されています。検査室に来られる際はカードキーをお持ちください。お困りの際はインターホンをご使用ください。

福山市民病院 臨床検査科	
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

- 5) 微生物検体の性状確認を行う場合や検体採取容器を取りに来られた方は微生物室入口のインターホンで技師をお呼びください。

5.検査依頼の仕方

5.1 電子カルテシステムによる依頼

5.1.1 電子カルテシステムによる依頼方法

- 1) 通常は電子カルテシステム端末のオーダー画面から検査項目をオーダー依頼します。
- 2) 時間外の検査オーダーは、「一般検体検査」の青色で表示されている項目のみ可能です。
- 3) 出力された採取ラベルに記載されている採取容器に検体を採取して下さい。
- 4) 採取上の注意事項は、院内検査については別冊「検査案内 院内検査項目一覧」、外部委託検査については、各委託先の「総合検査案内」を参照ください。
- 5) 輸血検査は、電子カルテ端末から製剤種類及び必要事項を入力し「輸血・血液製剤準備指示書」と交差用検体ラベルを出力し、検体に貼り付けて、輸血検査室に申込んでください。

5.1.2 検査ラベルの見方

1) 基本



① 採血管の色
または項目

② 指示 (2本採血等)

③ 採血管番号
検査案内をご参照ください

医師コメントはラベルに表示されますが、文字が小さく見落とされる可能性があります。重要なことは看護師へ伝達をお願いします。

2) 内容の確認



血液型は、13番の採血管に採血してください。
【1回目】の「血型 13」と【2回目】の「血型 13」が同時に発行された場合は、同時にまとめて採血せず、別時点で採血してください。血液型のダブルチェックのために必要です。



3) 特殊採血管の場合

2021/8/29 0001	専用容器	番号を振っていない特殊な採血管は、今まで通りお問い合わせください。
患者名前	ID: 0000000	
診療科	問い合わせ	
		
08290001-595	8mL	

4) その他

2021/8/29 0001	青 01	透析・カテ室・救急などでヘパリン投与を行っている患者の場合、「青 01」と書いてあっても下記の「02」または「HCU・東3用」を使用してください。また、小児の場合は「黄色プラスチック（ベビー用）09」を使用してください。
患者名前	ID: 0000000	
診療科	生化・血清	
透析前		
		
08290001-595	8mL	

1	2	HCU・東3	9
			
青色ゴム栓	茶色ゴム栓	黄色ゴム栓	黄色 プラスチック
青スピツツ	青スピツツ	青スピツツ	青スピツツ
9 mL	8 mL	8 mL	500 μ L
分離剤	高速凝固促進剤	高速凝固促進剤 ヘパリン中和剤	分離剤
			ベビーの生化学 (青ゴム栓採血管と同じ)



小児の場合、
「CBC 03」と血型 13 の表示
は「桃色プラスチック（ベビー
用） 08」を使用してください。



小児の場合、
「凝固 05」の表示は「水色プラスチック（ベビー用） 10」を使用してください。



※検体提出時間制限のある項目については、ラベルに「★」マークがつきます。
「19.結果報告に制限のある項目について」の項目をご参照ください

★マークがつく項目一覧

ラベルに★をつける項目	受付可能時間
PA-IgG	平日のみ：～15時までに提出
CYP2C9 遺伝子多型解析	平日のみ：～15時までに提出
先天異常染色体 G-band (血液)	平日のみ：～15時までに提出
染色体 G-band (血液)	平日のみ：～15時までに提出
BRACAnalysis	平日のみ：～14時までに提出
サラセミア検査	平日(月)～(木) 15時まで
NAP スコア	平日のみ 8:30～14:30
WT1mRNA 定量	平日のみ：～15時までに提出
PML/RAR α	平日のみ：～15時までに提出
出血時間	平日のみ 8:30～17:00
クロスミキシングテスト	平日のみ 8:30～14:30
Two-color 解析による細胞表面マーカー検査	平日のみ：～15時までに提出
T・B 細胞百分率	平日のみ：～15時までに提出
B 細胞免疫グロブリン SmIg(TOTAL,IgG,A,M,D,K鎖,L鎖)	平日のみ：～15時までに提出
末梢血好中球 BCR/ABL	平日のみ：～15時までに提出
染色体 SKY (先天異常)	平日のみ：～15時までに提出
フィラデルフィア染色体 BCR/ABL	平日のみ：～15時までに提出
γ 鎖 γ 再構成(血液)	平日のみ：～15時までに提出
β 鎖 β 再構成(血液)	平日のみ：～15時までに提出
モノクローナル抗体によるリバ球表面マーカーの自動解析	
CD4/CD8 比	平日のみ：～15時までに提出
悪性リバ球腫解析検査(MLA)CD45ゲーティング	平日のみ：～15時までに提出
白血球リバ球腫解析検査 (LLA)CD45ゲーティング	平日のみ：～15時までに提出
多発性骨髄腫解析検査 CD38マーカー解析	平日のみ：～15時までに提出
PML/RAR α (FISH 血液)	平日のみ：～15時までに提出
JAK2 遺伝子変異解析	平日のみ：～15時までに提出
major-BCR-ABL 変異解析	平日のみ：～15時までに提出
minor-BCR-ABL 変異解析	平日のみ：～15時までに提出
白血病遺伝子 SCR(血液)	平日のみ：～15時までに提出
AML1/MTG8(PCR 血液)	平日のみ：～15時までに提出

ラベルに★をつける項目	受付可能時間
Major-bcr-abl 定量(血液 PCR)	平日のみ: ~15 時までに提出
NUP98-HOXA9 定量 (PCR 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
MLL-MEN 定量 (PCR 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
AML1/ETO(FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
X 染色体 (先天性異常)	平日のみ: ~15 時までに提出
脆弱 X 染色体	平日のみ: ~15 時までに提出
IgH(14q32)(FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
IgH/c-myc(FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
IgH/MALT1(FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
p53(17p13.1)(FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
IgH/BCL2(FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
API2/MALT1 (FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
IgH/MALT1(FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
bcl6 3q27 転座(FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
NUP98-11p15 転座 (FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
IgH(14q32)(FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
D13S319(FISH 血液)	平日のみ: ~15 時までに提出
HLA-A,B	平日のみ: ~15 時までに提出
HLA-DR	平日のみ: ~15 時までに提出
HLA-ADNA タヒツグ	平日のみ: ~15 時までに提出
HLA-BDNA タヒツグ	平日のみ: ~15 時までに提出
HLA-CDNA タヒツグ	平日のみ: ~15 時までに提出
HLA-DRB1DNA タヒツグ	平日のみ: ~15 時までに提出
HLA-DPB1DNA タヒツグ	平日のみ: ~15 時までに提出
HLA-DQB1DNA タヒツグ	平日のみ: ~15 時までに提出
RAS 遺伝子変異 (リキッド)	平日のみ: ~15 時までに提出
DLST1	平日のみ: ~15 時までに提出
DLST2	平日のみ: ~15 時までに提出
DLST3	平日のみ: ~15 時までに提出
DLST4	平日のみ: ~15 時までに提出
DLST5	平日のみ: ~15 時までに提出
DLST6	平日のみ: ~15 時までに提出
DLST (ヘパリン)	平日のみ: ~15 時までに提出

ラベルに★をつける項目	受付可能時間
QFT-4G (QFT-Plus)	平日のみ: ~15時までに提出
UGT1A1	平日のみ: ~15時までに提出
サイトメガ ウイルス PP65 抗原	平日のみ: ~15時までに提出
白血球中 α-ガ ラクトジーゼ A	平日のみ: ~15時までに提出
T-SPOT.TB	平日のみ: ~15時までに提出
HTLV-1 核酸検出 (PCR)	平日のみ: ~15時までに提出
HTLV-1 フローティングウイルス定性 (PCR)	平日のみ: ~15時までに提出
PHA-リバ球幼若化試験	平日のみ: ~15時までに提出
ConA-リバ球幼若化試験	平日のみ: ~15時までに提出
HBV 分子系統解析	平日のみ: ~15時までに提出

検体ラベルの貼り方



同じ検体にラベルが複数枚ある時は必ず、並べて貼り付けてください。
ばらばらに貼ると見落とされる危険があります！！

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 18 / 46
文書名 検査案内「総合案内」 非管理文書	

病理検査・細胞診検査の場合



同じ患者で異なる臓器を採取した場合（内視鏡検査、手術など）、臓器名がそれぞれ記載され、その枚数分ラベルが発行されます。

5.2 検査依頼伝票による依頼

- 電子カルテシステムが使用できないシステムダウン時や緊急時などでオーダーを入力する時間のない場合等の非常時には、下記の伝票を使用します。
 - 緊急検査（非常時用）
 - 輸血用血液依頼書
 - 微生物検査
 - 一般検査
- 伝票には、患者ID、患者名、生年月日、性別、依頼元、主治医、提出年月日等の必要事項を明記、依頼項目チェック欄には「○」又は「レ点」で明示してください。微生物検査を依頼の際は微生物検査専用の伝票に上記の内容を明記して提出ください。
- 検体には、必ず手書きの検体ラベルを貼り付け、ラベルには、患者ID、患者名、依頼元を明記して提出ください。
- 保険適用外検査については、原則として病院（各診療科）負担となりますので、必要性を十分吟味した上で依頼してください。

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 19 / 46
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

5.3 新規項目を導入したい場合

申請項目がある場合、専用の依頼書が必要となります。

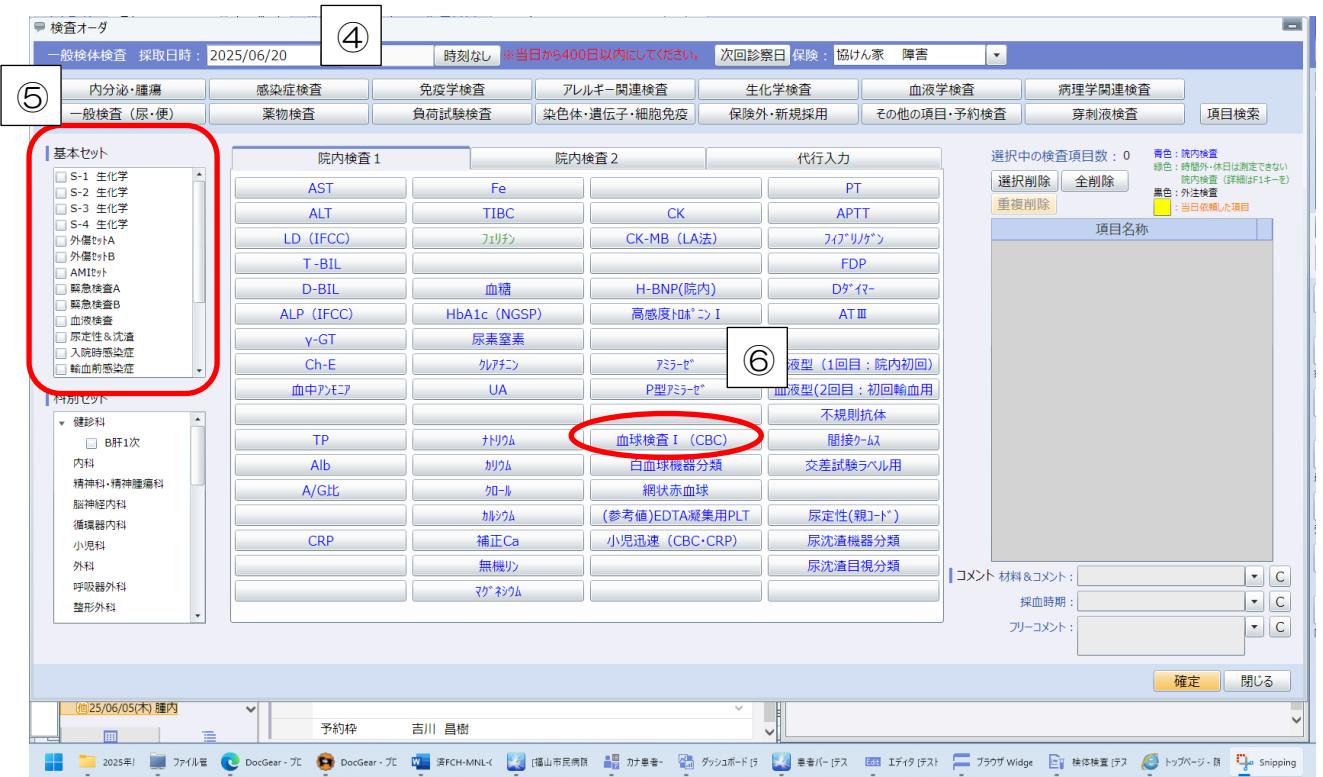
- 1) 作成した依頼書ファイルを以下のファイル管理（Fit Smart BOX）のフォルダに保存し、プリントアウトしたものを、医療技術部臨床検査科長あるいは次長のいずれかまで提出してください。
- 2) データ保存時に、ファイル名に日付などを追加変更して保存してください。
ファイル名に日付を追加 → 例) 20150923 検査
- 3) 印刷した依頼書には、必ず各（統括）科長のサインと印鑑をお願いします。
文書がある場所： ファイル共有（Fit Smart BOX） → 部門別 → 医療技術部 → 臨床検査科 → 更新可能 → ◆検体検査 項目申請依頼書 フォルダ→「検査項目の申請依頼書」
- 4) 生殖細胞系列遺伝子検査（生来的に保有する遺伝学的情報を明らかにする検査）については、倫理委員会での承諾を得る必要があります。
- 5) 「至急」の場合には、診療部臨床検査科長の承認、確認後に印鑑をもらい、医療技術部臨床検査科長あるいは次長に提出してください。
- 6) 保険適用外項目について（新たに検査を導入したい場合）
上記の新規項目受付手順と同様の手順です。

6.電子カルテシステム端末オーダー画面

- 1) ①のボタンを選択し、ナビゲーションマップを表示します。
- 2) ②「オーダー」を選択します。
- 3) ③「検体検査」あるいは「微生物検査」など必要な検査を選択してオーダーしてください。
- 4) ④一般検体検査を選択した場合、左側⑤の部分にセット項目があります。
⑥のように青色になっている検査のみ、時間外に受付可能な項目となっています（緑色になっている項目は平日の通常業務内ののみの測定となります）。

※注意事項（受付制限）などがある検査の場合、オーダーと同時にポップアップにてメッセージが出る場合があります。この場合はメッセージ通りに検体採取などを行い、検査室へ提出をお願いします。詳細はオーダー画面で **F1**

を押して確認してください。



福山市民病院 臨床検査科	
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

7.検体提出上の注意事項

- 1) 病理検体は、病理検査依頼票と病理ラベルと共に提出してください。
また過去に作製されたパラフィン包埋検体を使用する委託検査項目は、過去の標本に目的とする細胞が必要量残っているかどうかの確認が必要です。オーダーされる前に必ず病理検査に連絡してください。
- 2) 一般細菌検査と抗酸菌検査を同一検体で依頼する場合は、検体容器に2枚のラベルの検体番号、名前、患者ID、バーコードが重ならないように貼るか、どちらか一方のラベルをセロテープ等で容器に貼付けて提出してください。
- 3) 気管支擦過物などの塗抹標本は、細胞診材料であれば、スライドガラスに塗抹し、即座に95 %アルコールに浸して提出してください。スライドガラスには鉛筆でそれぞれに患者名、IDなどを記入してください。抗酸菌検査の塗抹標本、ブラッシングについても同様に鉛筆で患者名、IDなどを記入してください。
- 4) 救急外来・コードブルー症例など緊急で検査結果が必要な場合のみ至急対応を行います。依頼医は至急依頼であることを看護師へ伝えてください。検体搬送者は検体を臨床検査科へ持参した際は、至急依頼であることを直接検査要員へ伝えてください。
- 5) 時間外などで検査要員が不在の場合は必ず夜勤用のPHS（7322）へ連絡をしてください。検査要員が確認していない検体を放置して戻ることがないようにしてください。
(※救急外来から緊急検査伝票でオーダーされる際は、オーダー内容と採血管の確認を、検体を持ってきた人と検体を受け取る技師で読み合わせを行います。不一致の場合、検体を受け取ることができません。)

8.検体採取（患者準備）上の注意事項

検査	検体採取（患者準備）上の注意事項
検体検査	原則、早朝、空腹時に採血を行ってください。 ただし、別途指示がある場合は指示に従ってください。

	詳細は別冊「検査案内 院内検査項目一覧」の「採取・提出条件」を参照してください。
微生物検査	無菌的に採取してください。 詳細は別冊「検査案内 院内検査項目一覧」の「採取・提出条件」を参照してください。
病理検査	別冊「検査案内 院内検査項目一覧」の「採取・提出条件」を参照してください。

9.採血

9.1 採血手順

「標準採血法ガイドライン」、「真空採血管による採血（感染管理ベストプラクティス）」に準拠した中央採血室での手順方法を示します。

- 1) 採血者は、採血台のアシストシステムのバーコードリーダーにバーコードを使用しログインします。
- 2) 採血管トレイを持ってきて、患者確認用ラベルをアシストシステムのバーコードリーダーに読みませ、採血番号を電光表示版に表示、患者を採血台へ呼び込みます。
- 3) 患者から採血番号を回収し同様にバーコードリーダーに読みませ、アシストシステムと照合、画面上で照合確認をします。
- 4) 患者側から名前（フルネーム）及び生年月日の口頭申告により採血番号の名前と外来基本スケジュールの名前及び生年月日の確認をします。
患者が口頭申告できない場合には、採血者が名前及び生年月日を口頭にて質問・ホワイトボードにて筆談します。もしくは、付き添い者に確認をします。
このとき、採血管の名前と本数とアシストシステムに表示される名前と本数も確認します。
- 5) 採血管の名前に間違いがないか、患者と一緒に確認をします。
- 6) 食事時間・アルコール綿の禁忌・透析の有無（採血してはいけない腕がないか）等を確認し外来基本スケジュールに押印をします。患者へ採血に関するお願い、採血に関する合併症の理解を確認します。アルコールかぶれがある場合には、アルコール禁のラミネートカードを採血管トレイに入れます。

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 23 / 46
文書名 検査案内「総合案内」 非管理文書	

- 7) 手指消毒をします。
- 8) 採血道具の準備（翼状針・消毒綿・駆血帯・止血用パッド付き絆創膏）をします。
採血道具の準備で出たゴミは、表示に従って廃棄します。
- 9) 駆血帯をしめます。
- 10) 穿刺部位の確認をします。
- 11) 手指消毒をします。
- 12) 手袋をします。
- 13) 穿刺部位の消毒をします。
- 14) 消毒液が乾燥したのを確認してから穿刺し採血します。
針とホルダー間のチューブロスがあるため、液状の抗凝固剤の採血管を一番目に選択することは避けます。
採血する順番（ラベル容器名）
 - (1) 分離剤入り採血管（青色スピツツ等）
 - (2) クエン酸 Na 入り採血管（黒凝固、血沈）
 - (3) ヘパリン入り採血管（緑ヘパリン等）
 - (4) EDTA 入り採血管（CBC（紫）・紺アンモニア等）
 - (5) フッ化 Na+ヘパリン入り採血管（血糖）
 - (6) その他
- 15) 穿刺部位や指先に痛みやしびれが無いかを確認します。
- 16) 最後の採血管をホルダーから抜去し、すべての採血管に採血されているかを目視し、患者確認用ラベルやアシストシステムで採血本数を確認後、駆血帯を解除します。
- 17) 消毒綿を穿刺部位にあて針を抜き、圧迫止血します。
- 18) 翼状針付き採血ホルダー、駆血帯は感染性廃棄物の BOX へ廃棄します。
- 19) 消毒綿を外し、穿刺部位から血液が出てこない事を確認し、止血用パッド付き絆創膏を貼ります。消毒綿は、感染性廃棄物 BOX へ廃棄します。
- 20) 止血用パッド付き絆創膏を貼るまでに、「血液をサラサラにする薬を飲んでいないか。」「採血後に血が止まりにくいことがないか。」等を尋ねます。服薬されていたり、止血困難な場合、杖をついている等の場合には、止血用パッド付き絆創膏の上から乾綿等で補強をします。
- 21) 「止血用パッド付き絆創膏を 5 分間しっかりと押さえておく。」こと
「今は止血されていても、後で再出血する可能性がある。」こと
「帰宅してから外してもらう。」こと等を患者に伝えます。
- 22) 外来基本スケジュールを患者に渡し、次へ案内をします。

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 24 / 46
文書名 検査案内「総合案内」 非管理文書	

- 23) アシストシステムの終了を押します。
 - 24) すべての採血管に採血されているかをもう一度目視し、採血済みの採血管の本数を患者確認用ラベルやアシストシステムで確認して、搬送 BOX へ入れます。
 - 25) 手袋をはずします。
 - 26) 手指消毒をします。
 - 27) 清拭用クロスで肘枕と机を清拭します。
 - 28) 2)~27)の繰り返しを原則とします。
- ※皮膚に感染症などがある場合（疑いを含む）は駆血帯をしめる前から手袋をはめます。

9.2 中央採血室の混雑時の対応

- 1) 中央採血室が混雑している時には、中央処置室の看護師に採血応援をお願いしています。
- 2) 中央処置室の看護師は BC・ROBO・8000 RFID から採血管トレイを取り、中待合の患者に中央処置室での採血にご協力得られるかお尋ねします。
- 3) 了承を得られた場合に、中央処置室へ移動していただき採血を行います。採血の手順は、真空採血管による採血や標準採血法ガイドラインを外来看護師長へ順守して頂くように伝えています。

9.3 採血時の注意事項

- 1) 日本臨床検査標準協議会「標準採血法ガイドライン」に準拠します。
- 2) マスク、手袋（1 患者 1 手袋）は原則着用します。
- 3) 禁忌事項についても確認し、禁忌事項があればアシストシステムに登録します。
- 4) アルコールに過敏かどうかの問診を行い、アルコール過敏症の患者には 1 %クロルヘキシジングルコン酸塩含有綿（ヘキザック水溶液 1 %消毒布）を準備します。
アルコール過敏症の患者にアルコールを使用した場合には、主治医に報告し、電子カルテへ記載、インシデント報告を行います。
- 5) 採血が困難な場合には他のスタッフの協力を得て採血部を固定し、採血します。（採血が困難者への対応は、応援を要請）
- 6) 血液透析患者（シャント造設のみの患者も含む）のシャント側の腕からの採血は行いません。両腕シャント造設している場合は、患者を中央処置室で採血を行います。

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 25 / 46
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

- 7) 駆血帯を過度に強く締めると末梢側に過度のうっ血や出血斑、しひれが生じる場合があるため、駆血帯を締める強さに留意します。
- 8) 血中のカリウム濃度の上昇の原因となるため、クレンチング（血管の怒張が不十分な場合に手を「グーパー」させること）は極力避けるようにしてください。
- 9) 動脈損傷による内出血や神経損傷の原因になるため、針を深く刺入しない様にします。誤って動脈を穿刺した場合、直ちに医師を呼び、止血などの対処を致します。
- 10) 2回穿刺しても採血が不成功に終わった場合、他の採血者に代わります。
(原則同じ採血者が3回目の穿刺は避けます。)
採血を交代する場合には、前採血者と次採血者の2人で、指示書やアシストシステムを用いてトレイの中の採血管本数や種別のダブルチェックを行います。
- 11) 採血を失敗したなどの場合で新しい採血管を使用した際には、LIS端末にてラベルを再発行し採血管と名前をダブルチェックにて確認をし、元の採血管と新しい採血管を輪ゴム等でまとめ、同一のものと分かるようにし、搬送BOXへ入れます。
- 12) 造影検査などで太い血管の確保が必要な場合は、原則右腕の太い血管で採血は行いません。
- 13) 化学療法などで太い血管の確保が必要な場合は、基本スケジュールに部位指定の記載があるためそこで採血を行います。

9.4 採血後の注意事項

- 1) 採血後、採血管やテーブル、肘枕などに血液が付着した場合は清拭用クロス等できれいに拭き取ります。
- 2) 採血管に貼ってあるラベルが汚染した場合は新しいラベルに貼り換えます。
- 3) 抗凝固薬を服用している患者や圧迫止血困難な患者、止血補強を申し出られた患者などは止血パッドの上から乾綿で止血補強を行います。

9.5 体調不良者等への対応

- 1) 意識消失・呼吸停止などの重篤な場合（コードブルー）
 - (1) 意識消失・呼吸停止などの重篤な場合（コードブルー）採血中であれば直ちに抜針します。
 - (2) 中央処置室の看護師を呼びます。
 - (3) 速やかにコードブルー（内線 1000）で応援要請を行います。

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 26 / 46
文書名 検査案内「総合案内」 非管理文書	

- (4) 患者をストレッチャー等に寝かせ安静な状態にします。また、医師到着までの間にモニターの装着をして、血圧、SpO₂ の測定をします。
- (5) 看護師に引き継ぎます。
- (6) 医療技術部臨床検査科科長へ報告します。

FCH-FIG-09012

- 2) 採血による血管迷走神経反射（VVR : Vasovagal Reaction）を含む、心肺停止以外の患者急変の場合（RRT コール）
 - (1) 採血中であれば、直ちに抜針します。
 - (2) 中央処置室の看護師を呼びます。必要に応じて、RRT（rapid response team）のコール（内線 7200、7286）で応援要請をします。
 - (3) 患者をストレッチャー等に寝かせ安静な状態にします。また、応援が到着するまでの間にモニターの装着をして、血圧、SpO₂ を測定します。
 - (4) 主治医、外来看護師長（PHS 7110）に連絡をします。
 - (5) 看護師に引き継ぎます。
 - (6) 医療技術部臨床検査科科長へ報告します。

FCH-FIG-09013

※採血による VVR (Vasovagal Reaction) 血管迷走神経反射:

針が刺されることによる恐怖や痛みなどによるストレスで、血管に分布している迷走神経を刺激して血管が拡張して循環血液量が減少のため、血圧低下、冷汗、気分不快、顔面蒼白、除脈、失神などの症状が現れることがあります。

- 3) 採血している腕に痛みやしびれを訴えられた時
 - (1) 痛みやしびれを訴えられたら、採血動作を中断します。
 - (2) 神経損傷の疑いがあるため、原則針を抜きます。
 - (3) 針を抜いて痛みがなくなても、後日痛みや神経症状が出る場合があることを説明します。
 - (4) 採血による持続したシビレ・痛みへの対応（FCH-OUT-09010）を参照に対応し、しびれ・痛みへの記録（FCH-FIG-09014）を参照し電子カルテへ記載し、インシデント報告をします。
- 4) 転倒した場合
 - (1) 患者に打撲部位はないか確認します。必要であれば、中央処置室の看護師を呼びます。

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 27 / 46
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

- (2) 主治医、外来看護師長、医療技術部臨床検査科科長へ報告をします。
- (3) 転倒した場合の対応（FCH-FIG-09029）を参照し、電子カルテへの記載、インシデント報告を行います。

9.6 幼児・小児への対応

- 1) 16歳未満の幼児・小児は中央処置室で採血を行います。
- 2) 患者が来られたら BC・ROBO-8000 RFID で採血管を優先発行し、採血番号は『900』番台で採番され、中央処置室へ案内します。

9.7 針刺し事故防止

- 1) 採血は、原則として真空採血を行います。
- 2) 誤穿刺防止機能付翼状針を使用します。
- 3) 手袋を着用します。
- 4) 使用済みの針による針刺し事故に遭遇した場合、穿刺部を速やかに流水で丁寧に洗い流します。
- 5) 針刺し・切創感染対策（FCH-OUT-09008）、血液・体液暴露後対応マニュアル（FCH-OUT-09009）、に従い対処します。

10. 血液ガス

救急外来、NICU で測定した血液ガスの結果は、自動的に電子カルテへ反映されます。臨床検査室へ血液ガス検体を提出する場合、及び測定結果用紙の内容を電子カルテに反映させたい場合は以下の手順を参照してください。

10.1 血液検体を提出する場合

- 1) 採血後はシリンジ内に気泡が残らないよう、空気を抜いてください。
- 2) 十分なきりもみ混和を行います。
※採血時に十分な混和を行えていれば、提出するまでの間混和をし続ける必要はありません。
- 3) ラベルに採血時間を記入し速やかに検査室へ提出してください。
- 4) 検体提出時には血液ガス検体があることを確実に技師に伝えてください。
不在の場合は必ず電話連絡をお願いします。
※「検体がある」というだけでなく、「血液ガス検体がある」ことを伝えてください。
- 5) 検査室の血液ガス測定装置がキャリブレーション異常等で使用不可能な場

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 28 / 46
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

合、別の場所での測定をお願いする場合があります。測定後、結果の用紙を検査室へ持ってきてください。

- 6) 検査室の血液ガス測定装置が使用不可能な場合には、院内掲示板へ測定不能の記事を掲載します。使用可能になり次第、測定可能の記事を掲載します。
- 7) 使用不可能な場合の結果の電子カルテへの反映は、結果の用紙を受け取って 10 分以内に行います。

10.2 測定結果の用紙のみを提出する場合

- 1) 各部署で測定した結果の用紙に、ラベルを貼り付けて検査室へ提出してください。
※予め依頼医により検査結果の確認および承認された用紙のみを提出してください。
- 2) 測定結果に「?」などのエラーが出ている場合には、コメントに「〇〇（項目名）は△△（エラー内容）のため参考値」と入力します。
- 3) 電子カルテへの結果の反映を急ぐ場合は、提出時に直接技師へ伝えてください。
- 4) 用紙のみが提出された場合、結果のコメントに「血液ガスは検査室外で測定スミ」と入力します。

10.3 検査室で測定できない場合の条件

【キャリブレーション実施間隔】

①～⑤のパターンでキャリブレーションが行われるため、記載している時間帯は測定ができません。

- ① 1 point cal（所要時間約 5 分）
4 時間毎 1:00、(5:00)、9:00、(13:00)、17:00、(21:00)

- ② 2 point cal（所要時間約 10 分）
8 時間毎 5:00、13:00、21:00

※重なる時間帯は 2 point cal を実施し、1 point cal は実施しない

- ③ 消耗品（メンブラン）交換

※交換後 24 時間キャリブレーションの頻度が増えます。

※精度管理不良時や 1 週間に 1 度、必ず交換作業を実施します。

※交換後に不安定な状態が続き、キャリブレーションが 1 回で正常に終了しない場合があります。その場合はキャリブレーションが正常に終了するまで測定できません。

		キャリブレーション間隔	
最初の 4 時間	1 point cal	30 分毎	
	2 point cal	毎時間	
残りの 20 時間	1 point cal	毎時間	
	2 point cal	4 時間毎	

- ④ 10 分以内の間隔で連続して 11 回測定が行われた後 (1 point cal)
- ⑤ 前回測定から 30 分経過後 (1 point cal)

11.採尿

1) 自然尿

- (1) 尿は清潔な容器に中間尿を採取するようにしてください。
- (2) 中間尿は最初の尿は採取せず、排尿を止めずに途中の尿を採尿容器に採取してください。

2) 蓄尿

- (1) 蓄尿開始時間に排尿し、その尿を廃棄後に排尿された尿を専用容器に溜めてください。
- (2) 24時間蓄尿した尿を混和した後、尿の一部（検査に必要な量）を滅菌スピッツに移し、尿量・身長・体重を専用用紙に記載して検査室に提出してください。

蓄尿の採り方		
基本	<ul style="list-style-type: none"> ・尿を蓄尿 binに入れて冷暗所で保存 ・尿を入れる度に軽く混和 ・検査項目にあわせて試薬や遮光を行い蓄尿する ・24時間蓄尿終了後、全尿量を測定 ・一部を滅菌スピッツに入れ検査室へ提出 (尿量・身長・体重を記入して用紙も一緒に提出) 	
	※各試薬・外来用蓄尿ボトルは検査室にあります	
	塩酸を入れて蓄尿	
	<ul style="list-style-type: none"> ・アミノ酸分析 ・カテコールアミン3分画 ・メタネフリン2分画 ・パニリルマンデル酸(VMA) ・木モバニリン酸(HVA) 	
	CPR安定化剤を入れて蓄尿	
	<ul style="list-style-type: none"> ・C-ペプチド(CPR) 	
遮光して蓄尿 (遮光用茶色プラ容器で提出)		
<ul style="list-style-type: none"> ・ポルフォビリノーゲン 		
上記以外の項目は基本何も入れずに蓄尿してください		
わからないことがあつたら蓄尿開始前に 検査室(1260)にお電話ください		

3) 採尿の留意事項

- 1) 採尿前に尿道口を清拭することが望ましいです。自然尿では最低10mLの尿を採取するようにしてください。
- 2) 防腐剤は添加しないことが望ましいが、24時間蓄尿では検査項目により防腐剤や保存剤を使用することがあります。
- 3) 採尿後速やかに検査室に提出してください。

12. 採痰

- 1) 痰を出す前によくうがいをして口の中をリフレッシュします。
- 2) コップ1杯程度の水を飲みます。(痰がやわらかくなり、でやすくなります。)

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 31 / 46
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

- 3) 肩の上げ下げ、首を左右に曲げたり、胸をはったりして筋肉をほぐします。
- 4) 深呼吸をし、鼻から息を吸いお腹をふくらませ、口をすばめてゆっくり息を吐きます。これを5回以上繰り返して、「痰」が出やすくなるまで繰り返してください。
- 5) 水を飲み、大きく深呼吸をしたあと、2~3回強く咳をして「痰」を出してみてもらいます。
- 6) 唾液や鼻水が混ざらないようにします。
- 7) 滅菌カップに採取後速やかに提出してください。

13.検体の搬送方法

13.1 人手による搬送

中央採血室、外来診療科、各病棟、手術室などからは人手により、検体搬送BOXを使用して搬送を行います。そのほかの搬送手段を有しません。

13.1.1 中央採血室、外来診療科、各病棟、手術室などからの検体

受領した検体は LIS により到着確認を行い、その記録を保管管理します。
※救急外来からの伝票依頼検体に関しては、緊急検査伝票に記載された内容と相違が無いことを搬送者と要員が確認します。問題が無ければ緊急検査伝票に搬送者と確認者及び時間を記入します。

13.1.2 病理組織検査・細胞診検査の検体

- 1) 病理組織検査・細胞診検査の検体授受は、依頼票に記載された内容と相違がないことを搬送者と要員が復唱確認を確実にし、問題がなければ依頼票に搬送者と確認者の名前を記入します。
- 2) 検体を受領した後、依頼票を病理部門システム(LIS)に取り込み保存管理します。

13.1.3 微生物検査の検体

感染性の強い病原体が疑われる検体はビニール袋に入れ、搬送ボックスを用いて搬送します。

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 32 / 46
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

13.2 検体搬送上の注意事項

- 1) 検体搬送は、検体破損や紛失をしないように速やかに検査室に搬送します。
- 2) 緊急検体、血液ガス検体は、人手により搬送BOXを用いて、検体の破損や紛失をしないように速やかに検査室に搬送します。
※血液ガス検体は検査室到着時、血液ガス測定装置の状況を確認し、機器測定可能であれば受取り、検査を行います。測定機器がすぐ使用できない場合には、血液ガス測定装置がある他部署で測定を行うよう依頼をしますので、その際は他部署へ運搬してください。
(血液ガス測定装置設置部署：集中治療室、ICU/HCU、手術室、救急外来)
- 3) 搬送に使用する搬送BOXは、バイオハザードマークを貼付し、個人情報保護の観点から外から見えない容器を使用します。搬送者の検体取り扱いが、院内感染防止対策マニュアルの標準予防策に準じていることを確実にします。

13.3 検体受領時の注意事項

検体を紛失した場合は、搬送の状況を確認し、依頼医師や検体採取者へ直ちに連絡し、原因を究明します。

14.受入不可検体

下記の受入不可検体に関しては、受領することができないため、提出元に再採取を依頼します。受領後に不適切な検体であることが判明した場合も同様です。

- 1) ラベル無し、不適切なラベル
- 2) 不適切な採取容器
- 3) 検体量の過不足
- 4) 不適切な性状の検体（微生物の喀痰）
- 5) 材料違い
- 6) 極度の溶血（FCH-FIG-01030 溶血検体における採り直し基準による）
- 7) 検体の凝固、変性
- 8) 不適切な保存条件
- 9) 不適切な搬送条件

15. 主要検査項目の結果報告時間

検体到着後からの結果報告に要する時間の目安は、以下の通りです。各検査項目の詳細は、「検査項目一覧」を参照してください。再検査や検査項目数により、時間が異なります。

検査項目	「至急」依頼	通常依頼
尿定性	10分以内	30分～1時間
尿沈渣	1時間以内	1時間～2時間
髄液一般	1時間以内	1時間～2時間
血算	20分以内	1時間以内
凝固検査	40分以内	1時間以内
血液像	1時間	1時間～2時間

FCH-FIG-01030 溶血検体における採り直し基準の写真

溶 血 度	1	2
色 調		
	測定可能	採り直し

検査項目	「至急」依頼	通常依頼
骨髄像	1日	1日～4日
生化学検査	1時間以内	1時間～2時間
アンモニア	15分以内	20分以内
血液ガス	10分以内	10分以内
免疫学的検査	60分～90分	1時間～2時間
ABO/RhD 血液型	25分～30分	25分～1時間
直接クームス試験	15分	15分～1時間
間接クームス試験・不規則抗体検査	30分～40分	30分～1日
交差適合試験	30分～40分	30分～1日
一般細菌塗抹	日勤帯 40分 夜勤・休日日勤 60分	30分～1日
抗酸菌塗抹	2時間	2時間～1日
抗酸菌遺伝子検査	1日	1日～3日
一般細菌培養・同定・感受性	3日～5日	3日～7日
血液培養	8日目に最終報告	
抗酸菌培養	1週間ごとに報告、8週間で最終報告	
抗酸菌感受性	4週間～6週間	
インフルエンザウイルス抗原	30分	30分
口タウイルス抗原	20分	20分～1時間
尿中抗原（肺炎球菌、レツオネラ）	20分	30分～1時間
A群β溶血レンサ球菌抗原	30分	30分
RSウイルス抗原	30分	30分
ヒトメタニューモウイルス抗原	30分	30分
アデノウイルス抗原	30分	30分
ノロウイルス抗原	30分	30分
CD抗原・CDトキシン培養セット	1時間	1時間

16.パニック値（緊急異常値）の報告

16.1 依頼医または主治医への連絡

- 1) 外来患者・入院患者とも、下表に定める項目について、パニック値が見られた場合、依頼医師または主治医・担当医へ連絡します。
- 2) 設定したパニック値に該当しない場合でも必要と判断した場合は報告対象とします。
- 3) 電話連絡後、電子カルテへ記載します。
- 4) 報告の際には医師に患者の病態を尋ね、適宜、追加検査のアドバイスなどを行う場合もあります。

血液・生化学免疫検査	報告基準
血小板数	初回値： $30 \times 10^3 / \mu\text{L}$ 以下
白血球数	初回値： $30.00 \times 10^3 / \mu\text{L}$ 以上あるいは $1.00 \times 10^3 / \mu\text{L}$ 以下
赤血球数	初回値： $2.00 \times 10^6 / \mu\text{L}$ 以下
ヘモグロビン	初回値：7.0 g/dL 以下
血液像	判定困難な細胞の出現など担当者が必要と判断した場合
PT-INR	初回値：3.00 以上
フィブリノゲン	初回値：100 mg/dL 以下
血糖	60 mg/dL 以下、400 mg/dL 以上
AST	初回値：500 U/L 以上
ALT	初回値：1000 U/L 以上
LD	初回値：1000 U/L 以上
CK	初回値：1000 U/L 以上
AMY	初回値：1000 U/L 以上
UN	初回値：100 mg/dL 以上
CRE	初回値：5.00 mg/dL 以上
Na	120 mmol/L 以下、160 mmol/L 以上
K	2.0 mmol/L 以下、6.0 mmol/L 以上
Ca	6.0 mg/dL 以下、12.0 mg/dL 以上

NH ₃	200 µg/dL 以上
尿中ケトン体定性	(3+) 以上 (小児科依頼のみ)

微生物検査	報告基準
抗酸菌検査	結核菌陽性時*
血液培養	陽性時
グラム染色	髄液からの菌検出時
培養・同定・感受性検査	感染症法上、直ちに届出が必要となる病原体検出時*
レジオネラ尿中抗原	陽性時

*印については感染管理認定看護師 (CNIC) にも連絡する。

病理検査	報告基準
病理診断	<ol style="list-style-type: none"> 臨床上、緊急処置および緊急治療を要すると思われた診断結果の場合。 臨床上では悪性を疑っていないが、診断結果が悪性だった場合。 結核など、対処が必要な感染症の場合（臨床側が疑っていない場合）。 その他、病理医が必要と判断した場合

16.2 依頼医または主治医・担当医不在又は連絡不能の場合

- 平日日勤帯に依頼医あるいは主治医・担当医が不在又は連絡不能の場合は、検査科は患者が所属する病棟看護師・外来看護師・外来 DA へ連絡します。連絡を受けた職員は、依頼医あるいは主治医・担当医へ連絡をする。
- 休日日勤帯・夜勤帯に依頼医が不在又は連絡不能の場合は以下の表に沿って連絡します。

依頼医	連絡する医師
内科	救急 1 当直
循環器内科・心臓血管外科	救急 3 当直

救急科	救急勤務医
小児科	小児科勤務医
麻酔科	麻酔科勤務医
その他の科	入院病棟看護師

17.緊急検査への対応

- 1) 原則、全ての検査は至急扱いとしていますが、その中でも、特に緊急を要する検査については、「緊急検査」として優先的に検査を行います。
- 2) 緊急を要する場合は、事前の電話連絡又は検体を検査室に搬送するときに緊急検査であることを伝えてください。

18.追加検査への対応

- 1) 当日検体への追加依頼の可能な時間は、別冊「検査案内 院内検査項目一覧」を参照し、該当する検査室に対応の可否について問い合わせてください。保管条件と残量を確認し、可能であれば追加検査に対応します。
- 2) 当日検体以外での追加検査の可否は、別冊「検査案内 院内検査項目一覧」を参照し、該当する検査室に対応の可否について問い合わせてください。保管条件と残量を確認し、可能であれば追加検査に対応します。
- 3) 電子カルテに追加検査項目をオーダーしてください。
- 4) 追加オーダーする際は、すでに検体が提出済の時は臨床検査科に問い合わせ、検体量を確認後、追加オーダー項目の検体ラベルのみを提出してください。
- 5) 追加依頼した検体ラベルは、ラベルの紛失防止のため、専用の台紙に貼つて提出してください。

19.検査項目の修正・削除

- 1) 検査ラベル出力後の依頼について、修正・削除はできません。

福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 38 / 46
文書名 検査案内「総合案内」 非管理文書	

- 2) 修正がある場合、削除したい項目に関しては医事課と検査科に電話連絡してください。追加したい項目に関しては新規にオーダー入力し、検査室に連絡してください。
- 3) 不要になったラベルは捨てず、必ず専用の台紙に貼って検査室へ提出してください。その際、「追加」、「キャンセル」、「結果」に○をつけてわかるように記入をお願いします。

20.結果報告に制限のある項目について

院内検査項目のうち、測定機器の都合により、結果報告に制限がある場合や時間外・休日には測定できない項目があります。提出時にご注意ください。

項目	注意事項
IgG	・時間外・休日は測定不可。
IgA	
IgM	
RF	・平日の場合も、測定機器のメンテナンス・終了作業のため <u>15：00</u> 以降に検査室に到着した検体は、翌日あるいは 休み明けの測定、報告になります。
β ₂ -MG（血清・尿）	
Cys-C	
可溶性 IL-2 レセプター (sIL-2R)	
HBs 抗体	・時間外・休日は測定不可。
HBc 抗体	
HBe 抗原	
HBe 抗体	・平日の場合も、測定機器のメンテナンス・終了作業のため 16：00 以降に検査室に到着した検体は、翌日あるいは休み明けの測定、報告になります。
HCV コア抗原	
HIV	
HTLV-1	
CEA	※ 平日 16：00 以降で、結果が必要な場合は、必ず検査科に連絡してください。
AFP	※ 職員の針刺し事例に対する HBs 抗体の測定（初回）は、 時間外・休日を問わず測定しますので、検体提出時に必ず 検査科に連絡してください。
PIVKA-II	
CA19-9	
PSA	
CA125	
CA15-3	

項目	注意事項
SCC	
CYFRA	
フェリチン	
インスリン	
抗サイロプロブリン抗体	
抗 TPO 抗体	
サイログロブリン	
TSH レセプター抗体 (TR-Ab)	
便虫卵	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外・休日は測定不可。 ・測定可能時間は平日 8:30~16:00 です。
便原虫	<ul style="list-style-type: none"> ・平日 16:00 以降に検査室に到着した検体は、翌日あるいは休み明けの測定、報告になります。
鼻汁好酸球	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外・休日は測定不可。 ・測定可能時間は平日 8:30~17:00 です。 ・平日 17:00 以降に検査室に到着した検体は、翌日あるいは休み明けの測定、報告になります。
関節液	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外・休日は受付不可（受け取りできません）。
便中白血球	<ul style="list-style-type: none"> ・受付可能時間は平日 8:30~17:00 です。
便中脂肪球	
NAP スコア	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外・休日は受付不可（受け取りできません）。 ・受付可能時間は平日 8:30~14:30 です。
クロスマキシングテスト	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外・休日は受付不可（受け取りできません）。 ・受付可能時間は平日 8:30~14:30 です。
末梢血液像（鏡検法）	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外・休日は結果報告不可。 ・平日 16:30 までに検査室に到着した検体は、当日中の測定、報告になります。無染色標本が作製済の場合は、平日に染色を行い報告します。
出血時間	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外・休日は受付不可（検査できません）。 ・受付可能時間は平日 8:30~17:00 です。
抗酸菌塗抹	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外・土・日・祝日は原則結果報告不可。 ・平日 15:30 までに検査室に到着した検体は、当日中の結果報告になります。15:30 以降に提出した検体は、翌日あるいは休み明けの報告になります。



項目	注意事項
	※時間外で至急結果が必要な場合は、必ず検査科へ連絡してください
結核菌遺伝子検査 MAC 遺伝子検査	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外・休日は測定不可。 ・平日 13:00までに検査室に到着した検体は、当日中の測定、報告になります。13:00以降に提出した検体は、翌日あるいは休み明けの測定、報告になります。 <p>※13:00以降で、結果が必要な場合は、必ず微生物検査室に連絡してください。</p>
呼吸器感染症スクリーニング 髄膜炎スクリーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外・休日は測定不可。 ・平日 15:30までに検査室に到着した検体は、当日中の結果報告になります。15:30以降に提出した検体は、翌日の報告になります。 ・土曜日・祝日の微生物要員勤務日で 11:30までに検査室に到着した検体は、当日中の結果報告となります。11:30以降に提出した検体は、休み明けの報告になります。

21.検査システム（LIS）のトラブル対応と検査

- 1) 検査装置の故障又は検査システムトラブルにより検査が遅延又は不能な場合は、外来看護師長・医事課へ連絡及び院内情報共有掲示板へ掲載します。復旧次第、検査再開の報告を再度連絡します。
- 2) システム障害による検査結果報告の遅延を最小限に食い止めるため、検査室では、業務運用を工夫し、緊急検査を優先し必要最小限の検査サービスを維持します。また、遅延の状況、障害の程度により“検査システムが停止している”ことを外来看護師長・医事課へ連絡及び院内情報共有掲示板へ掲載します。
- 3) 原則、検査結果は各検査機器から印刷し、各診療科に報告します。
- 4) 障害復帰後、オフライン測定した結果を検査システムに登録し、検査結果が電子カルテに送信出来ていることを確認します。

22.電子カルテシステム（HIS）の障害時の対応と検査

福山市民病院 臨床検査科	
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

- 1) システム障害前に発行されたラベルがあれば、それを貼って検体を提出ください。ラベルが発行されない状態であれば、検体に手書きで患者名、IDを記入し、依頼伝票とセットにして検査室へ提出ください。
- 2) 検査結果は、WEB検歴(すい星オリオン)を参照できます。但し、条件によっては参照できない場合もありますので、その場合は検査結果を検査側から印刷し、依頼先に報告します。
- 3) 障害復旧後は、検査結果が電子カルテにきちんと送信できているか確認を行います。

23.公平性の確保と個人情報保護に関する臨床検査科の方針

臨床検査科は、臨床検査の公平性を損なう恐れのある如何なる活動にも関与しません。そのために、いかなる外的な圧力に対して公平性と中立性を損なわず、国内の関連法規及びISO 15189の規格を遵守し、また、特定の患者さん及び利用者に対しても便宜を図ることは行いません。

臨床検査科は、当院の個人情報保護に関する基本方針に準じて、患者の個人情報の取扱いには細心の注意を払い、検査業務で知り得た個人情報を保護します。

【検査科における患者の個人情報の範囲】

- 1) 患者から提出された全ての検査材料
(採血検体、尿、便、組織、穿刺液等、喀痰、濃、鼻汁等)
- 2) 依頼伝票、検体ラベル、受付票等、結果報告書
- 3) 検査に関する画像
- 4) 患者との会話情報（患者本人を含め、個人が特定できる内容を含む）

24.インフォームドコンセント

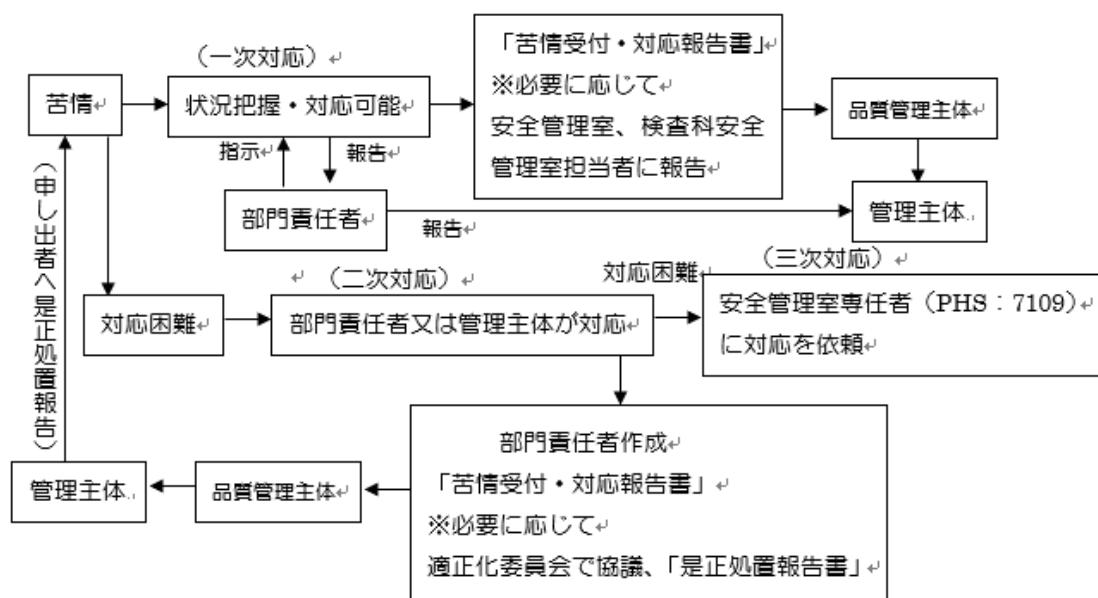
遺伝子検査、外部委託検査などで書面による同意が必要な検査は、主治医が説明と同意を得て同意書を作成してください。通常、採取検体が検査室に提出された検査依頼は、患者の同意が得られたものとみなして検査を進めます。

25.苦情処理手順

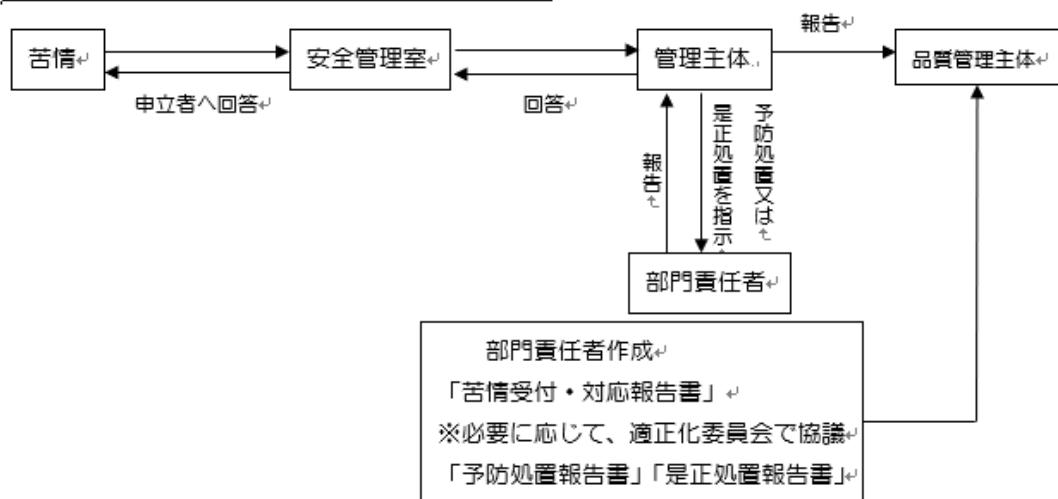
検査室への苦情、ご意見・要望は、「2.臨床検査科連絡先及び業務時間」の担当部門に連絡お願いします。臨床検査科の所定の手続きで再発防止及び改善・是正に努めます。

苦情処理のフローチャート

①口頭、電話にて寄せられた苦情への対応



②投書箱（ご意見箱等）からの苦情への対応



福山市民病院 臨床検査科	FCH-MNL-00015 Page 43 / 46
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

26.アドバイスサービス

検査依頼及び検査結果の解釈における臨床的アドバイスに関する問い合わせは、「2.臨床検査科連絡先及び業務時間」の担当部門に連絡ください。専門領域のアドバイスサービス者が対応します。

27.外部委託検査の委託先

下記の病院契約会社に委託しています。

臨床検査科は、定期的に委託先の遂行能力の評価を実施しています。

※検査項目（検査内容）により、患者の臨床情報や家族歴などの個人情報が必要な場合は、委託先へ提供することがあります。

現在委託している検査項目については別冊「検査案内 委託検査項目一覧」を参照ください。

委託先	主な委託検査項目	問合せ先
株式会社 福山臨床検査センター (FML)	生化学・免疫学的検査項目・遺伝子検査項目など	084-921-0120
株式会社 ビー・エム・エル(BML)	HER2(FISH)、腎生検(病理組織)、蛍光抗体検査など	084-923-6958
株式会社 エスアールエル(SRL)	遺伝子検査項目 悪性リンパ腫解析(リンパ節)など	050-2000-4712
株式会社 LSI メディエンス	肺癌関連検査項目など	082-545-8575

※委託先の検査内容について詳細に記載してある「検査案内」は、検査室にあります。委託検査項目や採血管などご不明な点がありましたら、検査室へお問い合わせください。

28.検査終了後の検体保管・二次利用・廃棄

1) 検体保管

検査終了後の検体（体液、組織、残余物）は、破損、濃縮、交差汚染の防止策を講じて、下表の保存条件で保存します。ただし、再検査、追加検査が可能な期間ではありません。特別に保存依頼があれば長期保存します。

部門	検体の種類	保管期間	保管温度
生化学検査 免疫検査	血清・血漿・穿刺液・尿検体	4日間～7日間	2℃～8℃
	血糖、HbA1c	4日間～7日間	2℃～8℃
血液検査	血算・凝固	1日間～2日間	2℃～8℃
	赤血球沈降速度検査	当日時間迄	室温
	骨髓液	当日時間迄	室温
	血液塗沫標本	1年間	室温
	骨髓標本	無期限	室温
一般検査	尿検査（カップ）	当日時間迄	室温
	尿検査（スピット）	当日時間迄	室温
	便潜血	当日時間迄	室温
	髄液	6ヶ月間	-20℃以下
微生物検査	一般細菌・抗酸菌検査材料	7日間	2℃～8℃
	血液培養ボトル（陰性）	陰性確認迄	33℃～37℃
	血液培養ボトル（陽性）	7日間	33℃～37℃
	分離菌株	7日間	室温
	染色スライド標本（一般細菌）	7日間	室温
	染色スライド標本（抗酸菌）	2ヶ月	室温
	抗酸菌 NALC 処理検体	2ヶ月	-20℃～-30℃
病理検査	ホルマリン固定材料（手術例）	1年間	すべて室温
	剖検例材料	2年間	
	特殊な剖検例	5年間	
	細胞診ガラス標本		

	陰性例 陽性例 組織診ガラス標本 パラフィンブロック	原則 5 年間 原則 15 年間 原則 20 年間 永久保存(原則)	
輸血検査	血液型・交差適合試験(全血) 不規則抗体検査 (全血) 【前】【後】輸血用保存 (血清)	21 日間 21 日間 2 年間	2 °C~8 °C 2 °C~8 °C -20 °C以下
保存検体	血清・血漿・全血・髄液・尿、肺胞洗浄液 (BAL)、体腔液 (腹水、胸水、心嚢液など)	原則 1 年間	-20 °C以下
* 保管期間は、再検査や追加検査への対応可能な保管期間とは異なります。			

2) 保存検体の二次利用と不正防止

- (1) 部門責任者は、検査終了後の検体、組織及び残余物の保管及び廃棄までは不正な二次利用を防止するために、部外者の立入を制限し、担当部門以外の要員が容易にアクセスできない場所で保管管理します。
- (2) 臨床検査科内での、「分析装置・試薬の導入」、「分析方法の検討」、「異なった測定機器間のデータ確認」、「内部精度管理」、「学生実習」などで二次利用する際は、プール化または匿名化し、個人情報や検査データの漏洩を防止する。
- (3) 研究など、検体の二次利用をする場合 (検査室に提出した検体を再利用する場合) 利用者は、「保存検体の二次利用申請書」で診療部臨床検査科長あるいは医療技術部臨床検査科長の承認を得たのちに行います。申請書は「ファイル共有 (Fit Smart BOX) → 05 部門別 → 15 医療技術部 → 015 臨床検査科 → 10 参照可能 → 二次利用申請書」にあります。

福山市民病院 臨床検査科	
文書名	検査案内「総合案内」 非管理文書

- (4) 倫理委員会審査対象となる研究のために二次利用をする場合は、倫理委員会の承認を得ます。また、二次利用をする検体については匿名化を図り、個人情報の流出を防止します。
- また、検査科に提出された検体を利用する場合、事前に検査科に申請が必要です。病理検体、あるいはそれ以外の検体により、それぞれ「検体保管依頼表」の提出が必要となります。詳細はファイル共有（Fit Smart BOX）にあるそれぞれの保管用紙を参照ください。
- 「部門別」→「医療技術部」→「臨床検査科」→「更新可能」の中の◆◆ 検体保管依頼表フォルダ内にあります。
- 病理検体とそれ以外の検体で内容が違いますので、間違えないように記載をお願いします。
- (5) 二次利用後の検体は、使用者が元の場所に返却します。または、検体の廃棄の手順に沿って確実に廃棄してください。
- (6) 警察への検体提出については、家族の同意または裁判所の略式命令が取れていますことを確認の上、主治医と協議して行います。

3) 検体の廃棄方法

検体保管期間を超過した検体は、「福山市民病院院内感染対策マニュアル」内の「 XI 感染性廃棄物の取り扱い」に準じて、分別し、以下の手順に従い安全に廃棄します。

- (1) 検体（血液、体液、組織など）は、感染性医療廃棄物としてバイオハザードマークのついた廃棄ボックスに入れ、蓋を閉じて、密封状態にしてから所定の業者回収場所に保管します。
- (2) 微生物検査検体及び分離培地、菌株は、高圧蒸気滅菌後に非感染性廃棄物として所定の回収場所に保管します。
- (3) 一般検査の尿検体は、汚物処理槽に廃棄します。
- (4) 廃棄物処理業者が廃棄ボックスを回収する際には、病院総務課と処理業者双方で運搬個数を確認します。